

授業科目名	義肢装具学演習 Practice of Prosthetics and Orthotics	履修年次: 必修:理3年	単位数: 1単位 30時間	担当教員名: 室井大佑(仁戸名研究室1) [理学療法士]、土屋淳(仁戸名 非常勤講師室)[義肢装具士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識、多職種との協働、生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1. 装具の適応となる疾患、障害が説明できる。 2. 装具の定義、種類、名称について説明ができる。 3. 装具を必要とする対象者の評価、装着、訓練を实践できる。				
〔授業の概要〕				
本授業では、四肢体幹の運動機能障害等に用いられる装具、移動機器等について理解を深めるために、これらを必要とする対象者とその定義、種類、名称などについて学ぶ。また、装具を必要とする対象者を評価し訓練するための基礎的な知識と技術を習得するために、装具の評価方法、訓練方法などについて学ぶ。				
キーワード: 上肢装具、下肢装具、体幹装具、足底板、車椅子				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	5/28	装具概論	装具の分類、定義、装具の機能と役割	室井大佑
第2回	6/4	短下肢装具	短下肢装具の種類、適応疾患	室井大佑
第3回	6/4	長下肢装具	長下肢装具の種類、適応疾患	室井大佑
第4回	6/11	装具部品 (装具足継手等)	下肢装具の足継手の構造と機能を学ぶ	室井大佑
第5回	6/11	脳血管障害片麻痺者の身体評価	身体機能評価、歩行評価、歩行介助	室井大佑
第6回	6/18	長・短下肢装具の適合評価	長・短下肢装具の採寸、チェックアウト	土屋淳
第7回	6/18	短下肢装具の採寸の実際	モデル講師の採寸	土屋淳
第8回	6/25	短下肢装具の装着訓練	脳血管片麻痺者の装着方法・適合評価	土屋淳
第9回	6/25	短下肢装具の装着訓練の実際	脳血管片麻痺者をモデルに適合評価を学ぶ	土屋淳
第10回	7/2	足底板・靴型装具	足底板、靴型装具の種類と適応疾患	土屋淳
第11回	7/2	足底板・靴型装具の装着訓練	装着方法を学ぶ	土屋淳
第12回	7/9	体幹・上肢装具	体幹・上肢装具の種類と適応疾患	室井大佑
第13回	7/9	膝・足関節装具	膝・足関節装具の種類と適応疾患	室井大佑
第14回	7/16	車椅子の身体評価	車椅子の評価方法を学ぶ	室井大佑
第15回	7/16	車椅子等の適合評価	車椅子の適合方法を学ぶ	室井大佑
履修条件	特になし			
予習・復習	予習は、各回の該当内容を熟読のこと。復習はノートと配布資料の見直しを推奨。			
テキスト	PT・OT ビジュアルテキスト第2版 義肢・装具学 高田治実 他、羊土社			
参考書・参考資料等	義肢装具のチェックポイント第9版 赤井正美 他、医学書院、理学療法テキスト 装具学 中山書店、脳卒中の下肢装具第3版 渡邊英夫 他、医学書院			
学生に対する評価	評価内容は学習態度(15%)、定期試験(85%)により行う。			

授業 科目名	理学療法研究方法論 (Research Methods of Physical Therapy)	履修年次: 必修: 3年	単位数: 1単位30時間	担当教員名: 堀本佳誉[理学療法士] (仁戸名研究室10)
		実務経験のある教員による授業科目		
		コード: RPB307		
〔DP〕 生涯にわたる探究心と自己研鑽、 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 エビデンスに基づく理学療法を実施するために研究方法を理解し、読んだ論文の内容を説明し、批評できることを目標とします。 理学療法における研究の意義と必要性を説明できる。 研究方法の概略を説明できる。 学術論文の構成を説明できる。 学術論文の検索が出来る。 学術論文の読み方を理解し、学術論文を批評できる。				
〔授業の概要〕 理学療法の考察や発展に重要な研究手法について、知識を修得する。 本科目は、研究課題の設定からのプロセスを学生相互で体験する演習形式により、理学療法の根拠を示すことを目的とした手法で、事例研究や統計課題によるデータ分析等の各手法の特徴や結果の分析を理解する。 キーワード: 研究方法・研究論文・文献レビュー・統計学				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	4/11	研究とは 研究論文とは	理学療法における研究の意義と必要性 研究論文の構成	
第2回	4/18	研究の進め方	研究デザインの種類、エビデンスレベル	
第3回	4/25	研究の進め方	対象の選択	
第4回	5/2	研究の進め方	データ測定	
第5回	5/9	研究の進め方	統計処理	
第6回	5/16	研究の進め方	統計処理	
第7回	5/23	研究の進め方	統計処理	
第8回	5/30	その他の研究	ケーススタディ、シングルケースデザイン	
第9回	6/6	その他の研究	システムティックレビュー、メタアナリシス 他	
第10回	6/13	論文の読み方	学術論文の読み方	
第11回	6/20	論文の読み方	学術論文批評	
第12回	6/27	研究倫理	研究倫理	
第13回	7/4	研究の進め方	テーマの選択	
第14回	7/11	論文作成	論文の書き方	
第15回	7/18	まとめ	授業全体を通じたまとめ	
履修条件		特になし		
予習・復習		各講義該当部分の教科書を読んで予習・復習を行うこと。		
テキスト		対馬栄輝 「理学療法研究法」 医歯薬出版 2021年		
参考書・参考資料等		適宜資料を配布する		
学生に対する評価		定期試験(85%)、授業時の学習態度(15%)により、総合的に評価する。		

授業 科目名	運動器障害理学療法学 (Physical Therapy for Musculoskeletal Disorders)	履修年次:	単位数:	担当教員名: 江戸優裕 (仁戸名研究室12) [理学療法士]
		必修: 理学3年	2単位 30時間	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 代表的な運動器疾患の病態と、それに関連して生じる機能障害に対する基本的理学療法を理解する。				
〔授業の概要〕 整形外科で学んだ知識を基礎とし、運動器障害の症例に対して理学療法を展開するうえで必要となる基本的な理論を学ぶ授業である。理学療法の対象となることの多い運動器障害を取り上げ、各組織の修復過程を踏まえて対処すべき機能障害の評価と介入について講義と実技を通じて学ぶ。担当教員の理学療法士としての実務経験に基づいてこれらの学習支援を行う。				
キーワード: 骨折、脱臼、変形性関節症、関節リウマチ、末梢神経損傷、靭帯損傷、スポーツ傷害				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	4/8	オリエンテーション 基礎理論	受講にあたっての注意事項と成績評価 運動病理学的モデル、加工ストレス、可動性・安定性、運動連鎖など	
第2回	4/15	組織の損傷・修復	骨・関節軟骨・靭帯・筋などの修復過程、PEACE & LOVE	
第3回	4/22	骨折・脱臼	上下肢の骨折(膝蓋骨骨折など)や脱臼に対する理学療法	
第4回	5/13	高齢者の骨折	高齢者の4大骨折(大腿骨頸部骨折など)に対する理学療法	
第5回	5/20	変形性関節症	変形性股関節症・変形性膝関節症に対する理学療法	
第6回	5/27	人工関節置換術	人工関節置換術・骨切り術などの手術前後における理学療法	
第7回	6/3	関節リウマチ	関節リウマチに対する理学療法	
第8回	6/10	脊椎疾患	頸椎症・椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症などに対する理学療法	
第9回	6/17	肩関節疾患	肩関節周囲炎・腱板損傷・関節唇損傷などに対する理学療法	
第10回	6/24	膝靭帯・半月板損傷	前十字靭帯損傷・半月板損傷などに対する理学療法	
第11回	7/1	足部疾患	足関節捻挫・アキレス腱損傷などに対する理学療法	
第12回	7/8	末梢神経損傷 四肢切断	腕神経叢麻痺・梨状筋症候群などに対する理学療法 上肢・下肢切断に対する理学療法	
第13回	7/22	スポーツ	スポーツ領域における理学療法の関わり スポーツ傷害(野球肘・シンスプリントなど)に対する理学療法	
第14回	7/29	ウイメンズヘルス 介護予防・産業	ウイメンズヘルス・介護予防・産業分野における運動器障害理学療法(妊産婦の骨盤帯痛・ロケイブシンドローム・勤労者の腰痛など)	
第15回	7/30	総括		
履修条件		特になし。実技を行うため運動着で出席すること。		
予習・復習		予習は整形外科の内容を再確認し、復習は授業内容を振り返ること。		
テキスト		配布資料、「最新理学療法学講座運動器理学療法学」木藤伸宏編著(医歯薬出版)		
参考書・参考資料等		運動器障害理学療法学(マクガヒュー)、運動器障害理学療法学テキスト(南江堂)、 運動器障害理学療法学(中山書店)、運動器疾患の病態と理学療法(医歯薬出版)、 整形外科理学療法の理論と技術(マクガヒュー)		
学生に対する評価		筆記試験(80%)・日ごろの学習態度(20%)		

授業 科目名	運動器障害理学療法学演習 (Practice of Musculoskeletal Physical Therapy)	履修年次:	単位数:	担当教員名: 江戸優裕 (仁戸名研究室12) [理学療法士]
		必修:理学3年	1単位 30時間	
		実務経験のある教員による授業科目	コード: RPB308	
〔DP〕 実践に必要な知識, 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 代表的な運動器疾患の病態と、それに関連して生じる機能障害に対する理学療法を理解する。そのうえで、基本的な理学療法評価および介入技術を習得する。				
〔授業の概要〕 整形外科学および運動器障害理学療法学で学んだ知識を基礎とし、運動器障害の症例に対して理学療法を展開するうえで必要となる理論と基本的な技術を学ぶ授業である。理学療法の対象となることの多い運動器障害を取り上げ、各組織の修復過程を踏まえて対処すべき機能障害の評価と介入について講義と実技を通じて学ぶ。担当教員の理学療法士としての実務経験に基づいてこれらの学習支援を行う。 キーワード: 骨折、脱臼、変形性関節症、関節リウマチ、末梢神経損傷、靭帯損傷、スポーツ傷害				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	10/1	オリエンテーション	受講にあたっての注意事項と成績評価	
第2回		体幹	体幹の運動器障害に対する理学療法の理論と実践 (整形外科的テスト・関節機能評価・リスク管理・運動療法など)	
第3回	10/8	体幹	体幹の運動器障害に対する理学療法の理論と実践 (整形外科的テスト・関節機能評価・リスク管理・運動療法など)	
第4回		体幹	体幹の運動器障害に対する理学療法の理論と実践 (整形外科的テスト・関節機能評価・リスク管理・運動療法など)	
第5回	10/22	上肢	肩関節の運動器障害に対する理学療法の理論と実践 (整形外科的テスト・関節機能評価・リスク管理・運動療法など)	
第6回		上肢	肩関節の運動器障害に対する理学療法の理論と実践 (整形外科的テスト・関節機能評価・リスク管理・運動療法など)	
第7回	10/29	上肢	肘関節・手部の運動器障害に対する理学療法の理論と実践 (整形外科的テスト・関節機能評価・リスク管理・運動療法など)	
第8回		上肢	肘関節・手部の運動器障害に対する理学療法の理論と実践 (整形外科的テスト・関節機能評価・リスク管理・運動療法など)	
第9回	11/5	下肢	股関節の運動器障害に対する理学療法の理論と実践 (整形外科的テスト・関節機能評価・リスク管理・運動療法など)	
第10回		下肢	股関節の運動器障害に対する理学療法の理論と実践 (整形外科的テスト・関節機能評価・リスク管理・運動療法など)	
第11回	11/12	下肢	膝関節の運動器障害に対する理学療法の理論と実践 (整形外科的テスト・関節機能評価・リスク管理・運動療法など)	
第12回		下肢	膝関節の運動器障害に対する理学療法の理論と実践 (整形外科的テスト・関節機能評価・リスク管理・運動療法など)	
第13回	11/19	下肢	足部の運動器障害に対する理学療法の理論と実践 (整形外科的テスト・関節機能評価・リスク管理・運動療法など)	
第14回		下肢	足部の運動器障害に対する理学療法の理論と実践 (整形外科的テスト・関節機能評価・リスク管理・運動療法など)	
第15回	11/26	総括		
履修条件	特になし。実技を行うため運動着で出席すること。			
予習・復習	予習は整形外科学および運動器障害理学療法学の内容を再確認し、復習は授業内容を振り返ること。			
テキスト	配布資料、「最新理学療法学講座運動器理学療法学」木藤伸宏編著(医歯薬出版)			
参考書・参考資料等	運動器障害理学療法学(マクガヒュー) 運動器障害理学療法学テキスト(南江堂) 運動器障害理学療法学 (中山書店) 運動器疾患の病態と理学療法(医歯薬出版) 整形外科理学療法の理論と技術(マクガヒュー)			
学生に対する評価	筆記試験(80%)・日ごろの学習態度(20%)			

授業 科目名	神経系障害理学療法学 Neurologic Physical Therapy	履修年次: 必修 理 3 年	単位数: 2 単位 30 時間	担当教員名: 室井大佑(仁戸名研究室 1)、 石川修平(非常勤講師室) [いずれも理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
		コード: RPB208		
〔DP〕 実践に必要な知識, 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中をはじめとした中枢神経疾患の病態および症状を理解し説明できる。 ・脳卒中をはじめとした中枢神経疾患に対する検査・測定の意義を理解し、適切に選択・実施できる。 ・脳卒中をはじめとした中枢神経疾患に対する理学療法の意義および各症状に対する適切な理学療法を理解し説明できる。 				
〔授業の概要〕				
はじめに、脳血管障害を中心とする中枢神経系疾患の理学療法の理解に必要な脳や脊髄など中枢神経系の構造・機能および病態・症状を学習する。それぞれの中枢神経系疾患に対する検査・測定の進め方について学習する。最後に、発症からの時期別、症状別の理学療法の意義および実践方法を学習する。				
キーワード: 脳血管障害、脊髄損傷、理学療法、評価				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/11	脳の構造と機能	主要な脳領域の構造・機能、錐体路、血管支配	室井大佑
第2回	4/18	脳卒中の病態と症状 1	脳卒中の分類、病理学的変化	室井大佑
第3回	4/25	脳卒中の病態と症状 2	運動機能障害、感覚障害	室井大佑
第4回	5/2	脳卒中の病態と症状 3	脳損傷とその回復過程	室井大佑
第5回	5/9	脳卒中の医学的管理	医学的管理	室井大佑
第6回	5/16	脳卒中リハビリの流れ	急性期、回復期、生活期の理学療法士の役割	室井大佑
第7回	5/23	片麻痺に対する評価 1	Impairment、急性期の理学療法、ROM ex	室井大佑
第8回	5/30	片麻痺に対する評価 2	SIAS、バランス、痙性評価の実践	室井大佑
第9回	6/11	脊髄損傷の理学療法	評価(ASIA、Zancolli の分類など)、合併症対策	石川修平
第10回	6/11	脊髄損傷の理学療法	理学療法	石川修平
第11回	6/20	片麻痺に対する評価 3	Activity, Limitation、FIM の実践	室井大佑
第12回	6/27	パーキンソン病の理学療法	評価(Yhar の分類など)、ADL 訓練、合併症対策	室井大佑
第13回	7/4	パーキンソン病の理学療法	理学療法	室井大佑
第14回	7/11	変性疾患の理学療法	筋萎縮性側索硬化症の理学療法	室井大佑
第15回	7/18	変性疾患の理学療法	多系統萎縮症の理学療法	室井大佑
履修条件	動きやすい服装			
予習・復習	予習として、下記テキスト・参考書の該当部分を読んでください。 復習として、講義内容および配布資料を復習・整理し、知識の定着をはかってください。			
テキスト	最新理学療法講座 中枢神経系理学療法学 (医歯薬出版株式会社)			
参考書・参考資料等	標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版 (医学書院)、15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法学 (中山書店)、15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法学 (中山書店)			
学生に対する評価	定期試験 (85%)、学習態度 (15%) で総合的に評価する。			

授業 科目名	神経系障害理学療法学演習 (Practice of Neurologic Physical Therapy)	履修年次:	単位数:	担当教員名: 科目責任者 室井大佑 [仁戸名研究室 1]
		必修 理 3 年	1 単位 30 時間	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 中枢神経系障害を代表する脳血管障害片麻痺者に対する基本的な運動療法ができるように、評価、問題点の抽出、治療プログラム選択から地域での理学療法の展開を学ぶものである。 急性期病棟の理学療法から理学療法室までの情報収集、評価、問題点の抽出ができる。 情報収集や問題点の抽出から、治療プログラムを立案する。また立案までの根拠を説明できる。				
〔授業の概要〕 理学療法の対象とする脳血管障害やパーキンソン等の中枢神経系、神経・筋疾患を中心とした障害に対して、学生相互の実技実習を含めた体験的な演習を行い、理解を深める。理学療法評価・治療のプロセスと治療手技を急性期、回復期、維持期ごとに学習し、評価を交えながら、中枢神経系障害に対する一連の理学療法の治療の流れを修得する。また、中枢神経系の障害に併発する高次脳機能障害を学び、問題点の抽出から治療に至るまでの過程での影響について学習する。				
キーワード: 脳血管障害、運動療法、高次脳機能、運動失調、歩行				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ マ	内 容	担当
第 1 回	10/7	片麻痺に対する運動療法 1	課題指向型アプローチ (起居動作)	室井大佑
第 2 回	10/7	片麻痺に対する運動療法 2	座位、立位	室井大佑
第 3 回	10/21	片麻痺に対する運動療法 3	ステップ、歩行	室井大佑
第 4 回	10/21	片麻痺に対する運動療法・実習	運動療法の実践 (歩行介助等)	室井大佑
第 5 回	10/28	小脳障害の病態・ICF	運動失調、ICF	室井大佑
第 6 回	10/28	小脳障害の症例検討	小脳疾患の評価とプログラム立案	室井大佑
第 7 回	11/11	頭部外傷、脳腫瘍の病態	頭部外傷、脳腫瘍、脳炎	室井大佑
第 8 回	11/11	運動機能に影響する高次機能評価	基盤的認知機能、注意機能、遂行機能障害	室井大佑
第 9 回	11/18	運動機能に影響する高次機能評価	半側空間無視	室井大佑
第 10 回	11/18	運動機能に影響する高次機能評価	Pusher 症候群への理学療法介入	室井大佑
第 11 回	11/25	運動機能に影響する高次機能評価	失語、失行	室井大佑
第 12 回	11/25	脳卒中の合併症	嚥下障害、栄養障害	室井大佑
第 13 回	12/2	脳卒中ガイドライン	脳卒中治療/理学療法ガイドライン	室井大佑
第 14 回	12/2	脳卒中の上肢へのアプローチ	上肢機能	室井大佑
第 15 回	12/9	脳卒中の予後予測	機能予後、ADL 予後	室井大佑
履修条件	神経系障害の理学療法評価学と理学療法学を履修済ませておいてください。			
予習・復習	シラバスに沿って授業を展開します。講義内容を予め事前学習して臨んでください。			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	最新理学療法講座 中枢神経系理学療法学(医歯薬出版株式会社) 標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学(医学書院) 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法学 (中山書店)			
学生に対する評価	定期試験(85%)、学習態度(15%)を勘案して評価します。			

授業 科目名	理学療法学特論 (運動器・老年期) Advanced Lectures in Physical Therapy : Musculoskeletal and Geriatric Disorders	履修年次: 選択:理3年	単位数: 1単位30時間 コード:RPB317	担当教員名:室井大佑(仁 戸名研究室1)、江戸優裕 (仁戸名研究室12)、磯田 一将(非常勤講師室)[い ずれも理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 健康づくりの実践, 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 代表的な運動器疾患に対するテーピングや動作改善のためのインソールの理論と技術を習得する。また、介護予防事業や障害者スポーツと理学療法士の関わりを理解する。そして、老年期特有の運動器障害や神経障害に対する理学療法と動作介助やリスク管理の理論と技術を習得する。				
〔授業の概要〕 運動器障害理学療法学および同演習、ならびに老年期障害理学療法学および同演習で学んだ知識を基礎とし、理学療法士としての実践力を高める授業である。前半は、代表的運動器疾患に対するテーピングや動作改善のためのインソール、そして介護予防事業や障害者スポーツと理学療法士の関わりについて学ぶ。後半は、老年期特有の運動器障害や神経障害に対する理学療法と動作介助やリスク管理について学ぶ。担当教員の理学療法士としての実務経験に基づいてこれらの学習支援を行う。				
キーワード:テーピング、インソール、介護予防、障害者スポーツ、老年症候群、動作介助、リスク管理				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担 当
第1回	10/7	テーピング	野球肘・ジャンパー膝・前十字靭帯損傷に対するテーピング	江戸優裕
第2回	10/7			江戸優裕
第3回	10/21	テーピング	肉離れ・足関節内反捻挫に対するテーピング	江戸優裕
第4回	10/21			江戸優裕
第5回	10/28	インソール	歩行を中心とした動作改善のためのインソール	江戸優裕
第6回	10/28			江戸優裕
第7回	11/11	介護予防・ 障害者スポーツ	高齢者に対する介護予防企画の立案と実施 障害者スポーツと理学療法士の関わり	江戸優裕
第8回	11/11			江戸優裕
第9回	11/18	スポーツ理学療法	スポーツ現場における理学療法士の役割 栄養、心理的な関わり	磯田一将
第10回	11/18			磯田一将
第11回	11/25	神経・運動器障害	老年期における神経・運動器障害理学療法の実際	室井大佑
第12回	11/25			室井大佑
第13回	12/2	動作介助	老年期における動作介助の実際	室井大佑
第14回	12/2			室井大佑
第15回	12/9	リスク管理	老年期におけるリスク管理の実際	室井大佑
履修条件	特になし。実技を行うため運動着で出席すること。			
予習・復習	予習は運動器障害理学療法学および同演習、ならびに老年期障害理学療法学および同演習の内容を再確認し、復習は授業内容を振り返ること。			
テキスト	配布資料			
参考書	授業内で適宜紹介する。			
学生に対する評価	授業態度(20%)・課題(80%)			

授業科目名	理学療法学特論 (神経・内部・地域) Clinical Issue of Physical Therapy	履修年次: 選択:理3年	単位数: 1単位 30時間	担当教員名: 科目責任者 室井大佑 [理学療法士][仁戸名研究室1] 稲垣武、坂崎純太郎[理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 中枢神経系疾患の神経筋再生への知見、血液ガス分析などの評価や内部障害の理学療法、在宅リハビリテーションを含む地域理学療法学、それぞれのトピックスについて講義と演習を交えながら学びます。 神経難病など中枢神経系障害の理学療法の介入方法を学びます。 呼吸・循環の評価、内部障害の理学療法の介入方法を学びます。 在宅リハビリテーションを含む地域理学療法の介入方法を学びます。				
〔授業の概要〕 理学療法対象の脳血管障害除く、多系統萎縮症による運動失調症など神経難病に対する神経科学や治療法のトピックスを講義します。呼吸器系の詳細な評価や臨床検査、内部障害の管理・理学療法について講義します。在宅での理学療法を理解します。本授業は、神経系障害理学療法は室井、内部障害理学療法は稲垣、地域理学療法は坂崎が行います。				
キーワード: 神経筋疾患、呼吸、内部障害、高齢者				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/3	筋萎縮性側索硬化症	疾病の進行に応じた理学療法プログラム	室井大佑
第2回	10/3	多発性硬化症の理学療法	病態と介入方法	室井大佑
第3回	10/10	多系統萎縮症の理学療法	多系統萎縮症による運動失調への理学療法	室井大佑
第4回	10/10	呼吸・循環の評価	バイタルサイン	稲垣武
第5回	10/17	呼吸器系の評価	血液ガスの解釈・換気障害の評価	稲垣武
第6回	10/17	呼吸器障害患者の安定期管理	呼吸器障害患者の管理	稲垣武
第7回	10/22	臨床検査の読み方	内部障害理学療法に必要な採血データ	稲垣武
第8回	10/22	内部障害の理学療法 補足	褥瘡のケア・ポジショニング	稲垣武
第9回	10/31	内部障害の理学療法 補足	整形・神経疾患の呼吸理学療法	稲垣武
第10回	10/31	内部障害の理学療法 補足	病的肥満の理学療法	稲垣武
第11回	11/7	内部障害の理学療法 補足	熱傷の理学療法	稲垣武
第12回	11/7	在宅高齢者の理学療法トピック	高齢者に対する理学療法理論と展開	坂崎純太郎
第13回	11/14	在宅高齢者の理学療法評価	高齢者に対する理学療法評価	坂崎純太郎
第14回	11/14	在宅高齢者の認知と運動機能 1	高齢者の認知・遂行・注意機能と理学療法	坂崎純太郎
第15回	11/21	在宅高齢者の認知と運動機能 2	高齢者の運動機能と理学療法	坂崎純太郎
履修条件	授業で実技を交える場合には、事前に体操服に着替えるようにお知らせします。また空きコマを利用して日程を早め、授業負担が内容に工夫します。			
予習・復習	事前に講義内容と日程を確認して臨んで下さい。			
テキスト	各講師が資料を提供します。			
参考書・参考資料等	特になし			
学生に対する評価	定期試験(80%)、学習態度(20%)で評価します。			

授業 科目名	内部障害理学療法学 (Cardiopulmonary physical therapy)	履修年次: 必修:理3年	単位数: 2単位30時間 コード:RPB209	担当教員名: 稲垣武 [理学療法士] (東校舎1)
		実務経験のある教員による授業科目		
		〔DP〕 実践に必要な知識、多職種との協働、生涯にわたる探究心と自己研鑽		
〔授業の到達目標及びテーマ〕 代表的な呼吸・循環・代謝・腎疾患の病態と、それぞれに対する基本的な理学療法を理解できる。 それぞれの疾患に対する理学療法の特徴を理解し、説明できる。 内部障害に対する理学療法上のリスク管理について理解できる。				
〔授業の概要〕 内部障害(呼吸機能障害、循環機能障害、代謝障害、腎機能障害)の定義や特徴、それぞれに対する基本的な理学療法、リスク管理について、講義を通じて学ぶ。また、病態や病期・重症度による介入の違いについて学習する。なお、本授業は内部障害理学療法の実務経験を有する理学療法士が臨床経験を踏まえて授業を行う。				
キーワード: 内部障害、理学療法、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝・腎疾患				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	4/10	内部障害理学療法学概論	内部障害の定義、特徴、疫学など	
第2回	4/17	呼吸障害の理学療法1	COPDの病態、COPDのリハビリテーション	
第3回	4/24	呼吸障害の理学療法2	癌の周術期リハビリテーション	
第4回	5/1	呼吸障害の理学療法3	ICUでのリハビリテーション	
第5回	5/8	呼吸障害の理学療法4	高齢者肺炎のリハビリテーション	
第6回	5/15	循環障害の理学療法1	循環器理学療法の概要	
第7回	5/22	循環障害の理学療法2	虚血性心疾患の理学療法	
第8回	5/29	循環障害の理学療法3	心疾患急性期の理学療法(心不全)	
第9回	6/5	循環障害の理学療法4	心疾患急性期の理学療法(心大血管疾患・心臓手術)	
第10回	6/12	循環障害の理学療法5	末梢動脈疾患の理学療法	
第11回	6/19	糖尿病の理学療法1	糖尿病の病態と治療	
第12回	6/26	糖尿病の理学療法2	糖尿病の理学療法の実際	
第13回	7/3	腎臓病の理学療法1	腎臓の解剖・生理、代表的疾患	
第14回	7/10	腎臓病の理学療法2	保存期慢性腎不全・人工透析患者の理学療法	
第15回	7/17	運動生理	運動時における呼吸・循環・代謝の反応	
履修条件	特になし			
予習・復習	各講義該当部分の教科書を読んで予習・復習を行うこと。			
テキスト	最新理学療法学講座 内部障害理学療法学 医歯薬出版 2021年			
参考書・参考資料等	適宜資料を配布する			
学生に対する評価	定期試験(90%)と学習態度(10%)により、総合的に評価する。			

授業 科目名	内部障害理学療法学演習 (Intervention by Cardiopulmonary Physical Therapy)	履修年次: 必修:理3年	単位数: 1単位30時間 コード:RPB310	担当教員名: 稲垣武 [理学療法士] (東校舎1)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識、生涯にわたる探究心と自己研鑽、コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 内部障害の理学療法評価について理解し、説明できる。 呼吸理学療法理学療法手技の定義、適応、禁忌を理解し、実施できる。 気管吸引や呼吸療法について理解できる。 循環器理学療法に必要な評価(心電図・心肺運動負荷試験)について理解できる。				
〔授業の概要〕 呼吸・循環障害を有する患者に対する理学療法についての知識を習得し、評価・治療手技の実技を通じてそれぞれの特徴や技術、リスク管理を学ぶ。なお、本授業は内部障害理学療法の実務経験を有する理学療法士が臨床経験を踏まえて授業を行う。				
キーワード: 内部障害、評価法、胸部理学所見、呼吸療法、気管吸引、理学療法手技				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	10/1	呼吸理学療法に必要な評価	評価の総論・医療面接	
第2回	10/1	フィジカルアセスメント	視診(体表解剖を含む)	
第3回	10/8	フィジカルアセスメント	触診・聴診・打診	
第4回	10/8	フィジカルアセスメント	触診・聴診・打診	
第5回	10/15	呼吸理学療法手技	コンディショニング	
第6回	10/15	呼吸理学療法手技	排痰法・体位管理	
第7回	10/24	気管吸引	気管吸引の基礎	
第8回	10/24	気管吸引	口腔/鼻腔/気管吸引の実技	
第9回	11/5	呼吸療法の理解	酸素療法	
第10回	11/5	呼吸療法の理解	人工呼吸器	
第11回	11/12	心電図判読	不整脈の病態	
第12回	11/12	心電図判読	心電図の理解、不整脈の判別	
第13回	11/19	心肺運動負荷試験	心肺運動負荷試験の基礎	
第14回	11/19	心肺運動負荷試験	運動処方の実践	
第15回	11/26	呼吸訓練器具	呼吸筋トレーニング・排痰補助	
履修条件	特になし			
予習・復習	内部障害理学療法学の復習をしておくこと。			
テキスト	15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸 中山書店 2022年			
参考書・参考資料等	適宜資料を配布する			
学生に対する評価	定期試験(90%)と学習態度(10%)により、総合的に評価する。			

授業科目名	老年期障害理学療法学 (Geriatric Physical Therapy)	履修年次: 必修:理3年	単位数: 2単位 30時間	担当教員名: 大谷拓哉[理学療法士] (研究室:仁戸名研究室11)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 理学療法の対象とする老年期に関わる特徴的な障害に対して、理学療法の治療を通して理解することを目標とします。 加齢による運動機能の解剖学・生理学・運動学的な変化の特徴を捉える。 高齢者の理学療法を行う際に必要な様々な評価方法を理解する。 高齢者の理学療法に関するエビデンスならびに実践方法を理解する。 全ての単元を理学療法士の実務経験を有する教員が担当する。				
〔授業の概要〕 理学療法の対象とする老年期に関わる特徴的な障害に対して、理学療法の治療方法をまじえて学習する。本科目は基本的な高齢者の特徴に加えて、理学療法評価から結果の考察、治療計画立案なども包括して、時期別、部位別、重症度別等のさまざまな観点からの理学療法について、基本的な問題の解決を修得する。 キーワード: 高齢者・老い・運動機能・理学療法				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	4/8	老化と理学療法	老化とは、高齢者の定義と分類、世界と日本の人口動態、平均寿命、高齢者医療への理学療法のかかわり	
第2回	4/15	高齢者の運動機能1	筋機能(筋力、固有筋力、筋厚、羽状角、筋内脂肪) 全身持久力(最大酸素摂取量)	
第3回	4/22	高齢者の運動機能2	バランス能力(重心移動範囲、姿勢制御戦略、外乱刺激への応答) 敏捷能力・筋パワー(反応時間、筋収縮速度) 移動能力	
第4回	5/13	高齢者の生理機能・精神心理面	感覚機能、自律機能、高次脳機能、知能、記憶	
第5回	5/20	高齢者の機能評価1	筋機能評価、持久力評価、敏捷能力評価	
第6回	5/27	高齢者の機能評価2	バランス評価、移動能力評価	
第7回	6/3	高齢者の機能評価3	活動能力評価(老研式活動能力指標、LSA、E-SAS) 障害高齢者の日常生活自立度	
第8回	6/10	高齢者の機能評価4	精神心理機能評価(MMSE、HDS-R、老年期うつ病評価尺度)、その他(簡易栄養状態評価表、フレイルの評価法)	
第9回	6/17	ロコモティブシンドローム	ロコモティブシンドロームとは、ロコモのしくみ、ロコモ度チェック	
第10回	6/24	高齢者の運動療法の実践	筋力トレーニング、バランストレーニング、持久力トレーニング	
第11回	7/1	高齢者の運動療法に関するエビデンス	ADL・QOL向上のための運動療法、転倒・骨折予防のための運動療法、身体活動促進	
第12回	7/8	高齢者の転倒予防に対する運動介入	転倒の実践、転倒リスクの評価、転倒予防に対する介入の実践	
第13回	7/22	高齢者の認知的側面からみた運動介入	複数課題条件下での運動機能、身体機能の認識、障害物回避のための運動介入	
第14回	7/29	高齢者の姿勢アライメント障害に対する運動介入	高齢者の姿勢アライメント、姿勢アライメントの評価、介入の実践	
第15回	7/30	まとめ	講義全体の総括	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習として参考書の関連領域を読んでください。 復習として講義内容を整理してください。			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学(医学書院) 高齢者の機能障害に対する運動療法(文光堂)			
学生に対する評価	定期試験(90%) 学習態度(10%)により総合的に評価する。			

授業 科目名	老年期障害理学療法演習 (Intervention by Geriatric Physical Therapy)	履修年次	単位数：	担当教員名： 松田 智行 [理学療法士] (非常勤講師室)
		必修：理3年	1単位30時間	
			コード：RPB311	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 コミュニケーション能力 実践に必要な知識 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 老化に伴う老年期の身体変化や特性に応じた理学療法を理解し、実践できる能力を身に付ける。 介護予防施策に理学療法士としてどのように関与できるのかを考え、関与できるだけの能力を身に付ける。				
〔授業の概要〕 老年期に関わる特徴的な障害に対する理学療法の介入について、体験を中心とし内容を理解する。本科目は、講義に加えて、学生相互の実技実習を含めた演習形式により、老年期の障害特性を踏まえた理学療法の実践を体験して習得を促進する。具体的には、時期別、部位別、重症度別等のさまざまな観点からの理学療法の介入について、基本的かつ老年期に特有な問題の解決を図ることができる技術を習得する。 ----- キーワード：高齢者、理学療法介入、介護予防、老化				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ - マ	内 容	
第1回	10/2	ガイダンス	履修の準備、課題発表およびレポートの説明	
第2回		認知症・コミュニケーション障害に対する接し方	認知症・コミュニケーション障害を有する高齢者への接し方について演習を通じ理解する	
第3回	10/9	(グループ演習)機能レベルに応じた理学療法介入	身体運動機能・構造の加齢変化、必要な測定方法を調べ、グループワークを行う	
第4回				
第5回	10/16	(グループ演習)高齢期における身体能力・活動の理解	高齢者モデルを装着し、実際の高齢者での体験を通じて、老年期における日常生活を理解する	
第6回				
第7回	10/23	(課題発表)機能レベルに応じた理学療法介入	身体運動機能・構造の加齢変化、必要な測定方法をグループで発表を行い、測定を実施する	
第8回				
第9回	10/30	(グループ演習)介護予防事業	介護予防事業(主に運動器疾患の予防)について演習を通じ理解し、課題発表の事前準備を行う	
第10回				
第11回	11/6	(課題発表)介護予防事業	高齢者に対するレクリエーション(目的・高齢者の身体レベル・効果等を考慮)をグループで考え発表する	
第12回				
第13回	11/13	(グループ演習)介護予防施策	千葉県の介護予防施策についてグループワークを行い、課題発表(介護予防政策)の事前準備を行う	
第14回				
第15回	11/20	(課題発表)介護予防施策	介護予防施策に理学療法士がどのように関わるのかグループで考え発表する	
履修条件		特になし		
予習・復習		実技実習で学んだことについては学生同士で復習してください。		
テキスト		授業の際に資料を配布する		
参考書・参考資料等		シンプル理学療法シリーズ「高齢者理学療法テキスト」 細田多穂監修 南江堂		
学生に対する評価		課題レポート(50%) 課題発表(30%) 授業態度(20%)により評価する。		

授業 科目名	発達障害理学療法学 (Pediatric Physical Therapy)	履修年次:	単位数:	担当教員名: 堀本佳誉 [理学療法士] (仁戸名研究室 1 0)
		必修: 理 3 年	2 単位 30 時間	
			コード: RPB211	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔 DP 〕 実践に必要な知識 生涯にわたる探究心と自己研鑽、倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<p>発達障害分野の理学療法を理解するために対象となる各疾患群の障害像および評価法、介入法について学び、これらを説明できる。</p> <p>発達障害分野の理学療法の対象となる疾患群の障害像を説明できる。</p> <p>発達障害分野の理学療法における特徴的な評価法・介入法を説明できる。</p>				
〔授業の概要〕				
<p>理学療法の対象とする妊娠期・周産期・新生児期や児童期等の発達段階に関わる中枢性神経障害や骨・関節等の発達や発育に影響する障害に対して理学療法の治療の実際について理解する。</p> <p>本科目は、講義に加えて、評価実技から結果の考察など治療計画立案などの演習形式も包括して、時期別、部位別、重症度別等のさまざまな観点からの理学療法の治療について、基本的な問題が解決を図る理学療法の技術を修得する。</p>				
キーワード: 運動発達、ハイリスク児、筋ジストロフィー、二分脊椎、脳性麻痺				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第 1 回	4/10	概論	発達障害理学療法の特殊性	
第 2 回	4/17	運動発達 1	運動発達の概略、原始反射	
第 3 回	4/24	運動発達 2	胎生期から 6 か月までの運動発達	
第 4 回	5/1	運動発達 3	7 か月から 12 か月までの運動発達	
第 5 回	5/8	発達障害の理学療法 1	低出生体重児・ハイリスク児に対する理学療法	
第 6 回	5/15	発達障害の理学療法 2	筋ジストロフィーに対する理学療法	
第 7 回	5/22	発達障害の理学療法 3	脊髄性筋萎縮症、ダウン症に対する理学療法	
第 8 回	5/29	発達障害の理学療法 4	二分脊椎症に対する理学療法	
第 9 回	6/5	発達障害の理学療法 5	小児整形疾患に対する理学療法	
第 1 0 回	6/12	発達障害の理学療法 6	脳性麻痺に対する理学療法	
第 1 1 回	6/19	発達障害の理学療法 6	脳性麻痺に対する理学療法	
第 1 2 回	6/26	発達障害の理学療法 6	重症心身障害に対する理学療法	
第 1 3 回	7/3	発達障害の理学療法 7	発達障害に対する理学療法	
第 1 4 回	7/10	理学療法介入	発達障害分野の理学療法介入	
第 1 5 回	7/17	まとめ	授業全体を通したまとめ	
履修条件		特になし		
予習・復習		各講義該当部分の教科書を読んで予習・復習を行うこと。		
テキスト		「最新理学療法学講座 小児理学療法学」医歯薬出版		
参考書・参考資料等		適宜資料を配布する		
学生に対する評価		定期試験 (85%) 授業時の学習態度 (15%) により、総合的に評価する。		

授業 科目名	発達障害理学療法学演習 (Intervention by Pediatric Physical Therapy)	履修年次: 必修:理3年	単位数: 1単位 30時間	担当教員名: 堀本佳誉[理学療法士] (仁戸名研究室 10)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔 DP 〕 実践に必要な知識、生涯にわたる探究心と自己研鑽、倫理観とプロフェッショナリズム				
〔 授業の到達目標及びテーマ 〕 発達障害分野の理学療法の実施計画を行うために、その実際について学び、計画を立てることができる。 発達障害分野の対象となる疾患群に対する評価を計画できる。 発達障害分野の対象となる疾患群に対する介入を計画できる。				
〔 授業の概要 〕 理学療法の対象とする妊娠期・周産期・新生児期や児童期等の発達段階に関わる中枢性神経障害や骨・関節等の発達や発育に影響する障害に対して理学療法の治療の実際について理解する。 本科目は、講義に加えて、評価実技から結果の考察など治療計画立案などの演習形式も包括して、時期別、部位別、重症度別等のさまざまな観点からの理学療法の治療について、基本的な問題が解決を図る理学療法の技術を修得する。				
キーワード: 発達障害理学療法評価、発達障害理学療法介入				
〔 授業計画 〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	10/3	理学療法評価1	原始反射	
第2回	10/3	理学療法評価1	原始反射	
第3回	10/10	理学療法評価2	姿勢評価	
第4回	10/10	理学療法評価2	姿勢評価	
第5回	10/17	理学療法評価3	筋ジストロフィーの動作観察・分析	
第6回	10/17	理学療法評価3	筋ジストロフィーの動作観察・分析	
第7回	10/24	理学療法評価4	脳性麻痺の歩行観察・分析	
第8回	10/24	理学療法評価4	脳性麻痺の歩行観察・分析	
第9回	10/31	理学療法評価5	筋ジストロフィーの歩行観察・分析	
第10回	10/31	理学療法評価5	筋ジストロフィーの歩行観察・分析	
第11回	11/7	理学療法介入1	介入の基本的な考え方	
第12回	11/7	理学療法介入2	筋ジストロフィーに対する理学療法介入	
第13回	11/14	理学療法介入3	脳性麻痺に対する理学療法介入	
第14回	11/14	理学療法介入3	脳性麻痺に対する理学療法介入	
第15回	11/21	まとめ	授業全体を通じたまとめ	
履修条件		特になし		
予習・復習		各講義該当部分の発達障害理学療法学の復習を行うこと		
テキスト		「最新理学療法学講座 小児理学療法学」医歯薬出版		
参考書・参考資料等		適宜資料を配布する		
学生に対する評価		定期試験(85%)、授業時の学習態度(15%)により、総合的に評価する。		

授業 科目名	発達障害理学療法学特論 Clinical Issue for Pediatric Physical Therapy	履修年次: 選択：理3年	単位数: 1単位15時間	担当教員名: 堀本佳誉 (仁戸名研究室10) 田舎中真由美 (非常勤講師) [理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 1. 実際の臨床現場を想定し、知識の整理を行う。 2. 産前産後の理学療法の評価および介入を計画できる。 3. 摂食障害に対する理学療法の評価および介入を計画できる				
〔授業の概要〕 理学療法の対象とする妊娠期・周産期・新生児期や児童期等の発達段階に関わる中枢性神経障害や骨・関節等の発達や発育に影響する障害に対して、理学療法の治療について、ペーパーペイシエントなどを用いて知識の整理と体験を統合する過程を体験する。 また、産前産後の理学療法や発達障害児に対する理学療法について、講義および実技を通して知識と技術を習得する。				
キーワード: ポジショニング、ペーパーペイシエント、摂食嚥下、産前産後				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	11/28	オリエンテーション 発達障害理学療法の実際	発達障害児に対する理学療法介入	堀本
第2回	11/28	発達障害理学療法の実際	発達障害児に対する理学療法介入	堀本
第3回	12/5	発達障害理学療法の実際	発達障害児に対する理学療法介入	堀本
第4回	12/5	発達障害理学療法の実際	発達障害児に対する理学療法介入	堀本
第5回	12/12	発達障害理学療法の実際	ペーパーペイシエントによるシミュレーション	堀本
第6回	12/12	発達障害理学療法の実際	ペーパーペイシエントによるシミュレーション	堀本
第7回	12/19	産前産後	産前産後の理学療法	田舎中
第8回	12/19	産前産後	産前産後の理学療法	田舎中
履修条件	特になし			
予習・復習	発達障害理学療法学および発達障害理学療法学演習の復習をしておくこと。			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	発達障害理学療法学、発達障害理学療法学演習で使用した講義資料			
学生に対する評価	学習態度(16%)とレポート(84%)で総合的に判断します。			

授業科目名	地域理学療法学 (Community Based Physical Therapy)	履修年次: 必修:理学3年	単位数: 2単位 30時間	担当教員名: 科目責任者 堀本 佳誉 (仁戸名研究室10) 坂崎純太郎[理学療法士]、 加藤太郎[理学療法士・非常勤講師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム, 実践に必要な知識, 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、地域理学療法学実習に向けて、在宅で障害を持って生活する高齢者の理学療法に必要な制度の理解や理学療法評価・治療について学び、理解することを到達目標とする。さらに、近年理学療法士が派遣されることのある災害時のリハビリテーションや地域活動、国際支援を学び、理学療法士の活動の多様性について理解することを到達目標とする。				
〔授業の概要〕 本授業では、地域理学療法学実習に向けて、在宅で障害を持って生活する高齢者の理学療法に必要な保健制度の知識や理学療法評価・治療、地域における理学療法士の役割について講義する。また、理学療法士が社会で活躍する場面やその役割について講義する。				
キーワード: 地域リハビリテーション、社会における理学療法士の役割				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/11	地域リハビリテーション概念・定義1	地域リハビリテーションや保険制度1	坂崎純太郎
第2回	4/18	地域リハビリテーション概念・定義2	地域リハビリテーションや保険制度2	坂崎純太郎
第3回	4/25	通所・訪問における理学療法1	通所・訪問で用いる理学療法評価 身体機能1	坂崎純太郎
第4回	5/2	通所・訪問における理学療法2	通所・訪問で用いる理学療法評価 身体機能2	坂崎純太郎
第5回	5/9	通所・訪問における理学療法3	通所・訪問で用いる理学療法評価 認知機能	坂崎純太郎
第6回	5/16	通所・訪問における理学療法4	通所・訪問で用いる理学療法評価 社会参加	坂崎純太郎
第7回	5/23	健康維持・増進と産業理学療法	健康増進と産業理学療法	坂崎純太郎
第8回	5/30	行政と理学療法士との関わり	行政における理学療法士の役割	坂崎純太郎
第9回	6/6	小児分野の地域理学療法	子どもが受けられる障害福祉サービス	堀本佳誉
第10回	6/13	小児分野の地域理学療法	小児分野の地域理学療法の実際	堀本佳誉
第11回	6/21	災害時における理学療法士の役割1	災害時における理学療法士の役割1	加藤太郎
第12回	6/21	災害時における理学療法士の役割2	災害時における理学療法士の役割2	加藤太郎
第13回	6/28	国内における退院支援と地域連携	退院支援と地域連携における理学療法士の役割	加藤太郎
第14回	6/28	理学療法士による国際支援	国際支援に関わる理学療法士の役割	加藤太郎
第15回	7/4	緩和ケア・終末期医療の理学療法	緩和ケア・終末期医療の理学療法	坂崎純太郎
履修条件	特になし			
予習・復習	特になし			
テキスト	最新理学療法学講座 地域理学療法学 医歯薬出版株式会社			
参考書・参考資料等	必要に応じて適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験(85%)、授業時の学習態度(15%)により、総合的に評価する。			

授業 科目名	地域理学療法学演習 (Community Based Physical Therapy)	履修年次: 必修:理学3年	単位数: 1単位30時間	担当教員名: 科目責任者 堀本 佳誉 (仁戸名研究室 10) 稲垣武,坂崎純太郎[理学療法士] ,瀬宮卓[理学療法士・非常勤講師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム, 実践に必要な知識, 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、地域理学療法学実習に向けて、在宅で障害を持って生活する高齢者が抱える諸問題を具体的な形で取り上げ、それに対する理学療法士の役割について理解し、理学療法評価からプログラム案を作成できることを目標とする。				
〔授業の概要〕 本授業では、地域理学療法学実習に向けて、在宅で障害を持って生活する高齢者が抱える諸問題を具体的な形で取り上げ、それに対する理学療法士の役割について講義し、実際にケース検討会を実施する。				
キーワード: 地域リハビリテーション、在宅高齢者へのリハビリテーション				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/4	地域理学療法と地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムや地域ケア会議	坂崎純太郎
第2回	10/4	各施設サービスと保険制度	訪問・通所リハビリと保険制度	坂崎純太郎
第3回	10/11	在宅高齢者の地域理学療法 1	在宅高齢者の評価と理学療法介入	坂崎純太郎
第4回	10/11	在宅高齢者の地域理学療法 2	在宅高齢者を対象とした事例検討	坂崎純太郎
第5回	10/18	脳卒中・神経疾患への地域理学療法 1	脳卒中・神経疾患の評価と理学療法介入	坂崎純太郎
第6回	10/18	脳卒中・神経疾患への地域理学療法 2	脳卒中・神経疾患を対象とした事例検討	坂崎純太郎
第7回	10/25	脳卒中・神経疾患への地域理学療法 3	脳卒中・神経疾患を対象とした事例検討	坂崎純太郎
第8回	11/1	地域理学療法の管理と運営 1	地域理学療法分野における管理・運営	瀬宮 卓
第9回	11/1	地域理学療法の管理と運営 2	地域理学療法分野における管理・運営	瀬宮 卓
第10回	11/8	呼吸・循環器疾患への地域理学療法 1	呼吸・循環器疾患への評価と理学療法介入	稲垣武
第11回	11/8	呼吸・循環器疾患への地域理学療法 2	呼吸・循環器疾患を対象とした事例検討	稲垣武
第12回	11/15	小児疾患患者の地域理学療法 1	小児疾患の評価と理学療法介入	堀本佳誉
第13回	11/15	小児疾患患者の地域理学療法 2	小児疾患を対象とした事例検討	堀本佳誉
第14回	11/22	運動器疾患患者の地域理学療法 1	運動器疾患の評価と理学療法介入	坂崎純太郎
第15回	11/22	運動器疾患患者の地域理学療法 2	運動器疾患を対象とした事例検討	坂崎純太郎
履修条件	特になし			
予習・復習	前期科目である「地域理学療法学」を復習しておくこと			
テキスト	最新理学療法学講座 地域理学療法学 医歯薬出版株式会社			
参考書・参考資料等	必要に応じて適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験(85%)、授業時の学習態度(15%)により、総合的に評価する。			

授業 科目名	理学療法技術論 (Technology in Physical Therapy)	履修年次: 必修:理4年	単位数: 1単位30時間	担当教員名: 堀本佳誉[理学療法士] (仁戸名研究室10) 室井大佑、江戸優裕、稲垣武、 坂崎純太郎[理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 各分野の理学療法の最先端のトピックについて学び、これらを説明できる。 発達障害理学療法の最先端のトピックスを説明できる。 中枢神経障害理学療法の最先端のトピックスを説明できる。 運動器障害理学療法の最先端のトピックスを説明できる。 内部障害理学療法の最先端のトピックスを説明できる。 地域理学療法の最先端のトピックスを説明できる。				
〔授業の概要〕 理学療法の対象とする発達障害、中枢神経障害、運動器障害、内部障害、地域分野の理学療法の最先端の評価、介入技術に関する技術と考え方を理解し、卒後の自己研鑽につなげることを目的とする。				
キーワード: 発達障害、中枢神経障害、運動器障害、内部障害、地域理学療法				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/7	発達障害の理学療法	発達障害理学療法のトピックス	堀本佳誉
第2回	10/7	発達障害児の理学療法	発達障害理学療法のトピックス	堀本佳誉
第3回	10/21	発達障害児の理学療法	発達障害理学療法のトピックス	堀本佳誉
第4回	10/21	中枢神経系障害の理学療法	中枢神経障害理学療法のトピックス	室井大佑
第5回	10/28	中枢神経系障害の理学療法	中枢神経障害理学療法のトピックス	室井大佑
第6回	10/28	中枢神経系障害の理学療法	中枢神経障害理学療法のトピックス	室井大佑
第7回	11/11	運動器障害の理学療法	運動器障害理学療法のトピックス	江戸優裕
第8回	11/11	運動器障害の理学療法	運動器障害理学療法のトピックス	江戸優裕
第9回	11/18	運動器障害の理学療法	運動器障害理学療法のトピックス	江戸優裕
第10回	11/18	内部障害の理学療法	内部障害理学療法のトピックス	稲垣武
第11回	11/25	内部障害の理学療法	内部障害理学療法のトピックス	稲垣武
第12回	11/25	内部障害の理学療法	内部障害理学療法のトピックス	稲垣武
第13回	12/2	地域理学療法	地域理学療法のトピックス	坂崎純太郎
第14回	12/2	地域理学療法	地域理学療法のトピックス	坂崎純太郎
第15回	12/9	地域理学療法	授業全体を通じたまとめ	坂崎純太郎
履修条件	特になし。			
予習・復習	シラバスに沿って授業を展開します。講義内容から事前学習をしておいてください。			
テキスト	特になし。各担当教員が作成した資料をもとに授業を展開する。			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	レポート(85%)、授業時の学習態度(15%)により、総合的に評価する。			

授業科目名	生体機能計測学 Biological functional Methodogy	履修年次: 選択：理3年	単位数： 1単位 30時間	担当教員名： 大谷拓哉[理学療法士] (仁戸名研究室11) 堀本佳誉、江戸優裕、 稲垣武、室井大佑 [理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 健康づくりの実践, 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、生体機能・現象を計測可能な各機器の原理、センサの種類や特性、計測方法について学び、各機器で計測できる生体機能・現象を整理することで卒業研究および臨床を見据えた計測デザインの立案ができることを目標に講義を進めていく。				
〔授業の概要〕 各単元のテーマにおいて、着目する生体現象や機器の原理・特性、計測方法およびデータの処理方法や解釈について、演習を含めて講義する。また、テーマによっては計測デザインやデータ解析例を具体的に提示する。すべての単元は理学療法士の実務経験を有する教員が担当する。				
キーワード：生体機能・現象、計測デザイン、計測機器				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/8	ガイダンス	受講に関する注意事項、成績評価方法などの説明	大谷
第2回	4/15	計測法総論	生体機能の計測デザイン、計測の注意点	大谷
第3回	4/22	神経・筋機能計測	動作筋電図	大谷
第4回	5/13	姿勢・運動機能の計測 1)	重心動揺計	江戸
第5回	5/20	筋力計測 1)	Hand Held Dynamometer	大谷
第6回	5/22	筋力計測 2)	トルクマシン	大谷
第7回	5/27	姿勢・運動機能の計測 2)	3次元動作解析装置・床反力計	江戸
第8回	6/3	姿勢・運動機能の計測 3)	加速度・ジャイロセンサ	江戸
第9回	6/10	姿勢・運動機能の計測 4)	脊柱計測分析器 (Spinal Mouse)	江戸
第10回	6/17	脳機能の計測 1)	脳機能計測	室井
第11回	6/24	脳機能の計測 2)	視線計測	室井
第12回	7/1	呼吸機能の計測	スパイロメータ 他	稲垣
第13回	7/8	筋の量的・質的計測	超音波検査装置	堀本
第14回	7/22	計測デザイン演習	計測デザイン立案の演習	大谷
第15回	7/29	まとめ	講義全体の総括	大谷
履修条件	特になし			
予習・復習	予習として各単元のテーマについて参考書等を確認してください。復習は講義内容を整理してください。			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	「計測法入門 計り方・図る意味」 協同医書出版			
学生に対する評価	課題(80%)、学習態度(20%)により総合的に評価する。			

授業 科目名	理学療法応用評価学 (Clinical Physical Therapy Assessment)	履修年次: 必修:理3年	単位数: 1単位30時間	担当教員名: 堀本佳誉[理学療法士] (仁戸名研究室10) 大谷拓哉、室井大佑、江戸優裕、 坂崎純太郎[理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識、コミュニケーション能力、生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 臨床現場を想定し、各科目で学習した成果を実践することを目的とします。 理学療法評価学で学んだ評価方法の確認をします。 現場での正確な計測ができるよう、シミュレーテッドペイシエントに対して評価を実施します。				
〔授業の概要〕 理学療法評価学の応用を目的とし、理学療法評価学・理学療法評価学演習をはじめ、整形外科学や神経科学の総論と各論で学習してきた身体機能を臨床実習に活かすために、実習前実技試験(OSCE)やペーパー・ペーシエント、シミュレーテッドペイシエントを利用する。 運動器系障害や中枢神経系障害を問わず、臨床実習前後にOSECを行い、学習の再確認を行うものである。3学年の評価実習に向けての取り組みと振り返り、4学年の総合実習にむけて理解を深める。				
キーワード:各疾患に対する検査・測定、評価方法の確認				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/25	オリエンテーション	受講に関する注意事項	堀本
第2回	11/8	実習前実技試験	各検査測定方法の実技テスト	全教員
第4回	11/15	評価の実際	整形外科疾患に対する評価の実際	江戸・坂崎
第5回	11/15	評価の実際	整形外科疾患に対する評価の実際	江戸・坂崎
第6回	11/29	評価の実際	中枢神経疾患に対する評価の実際	室井・大谷
第7回	11/29	評価の実際	中枢神経疾患に対する評価の実際	室井・大谷
第8回	12/6	実習前総復習	実習記録・報告書の書き方	堀本
第9回	12/6	実習前総復習	臨床での報告書の実際	室井
第10・11回	12/13	実習前実技試験	整形外科疾患に対する評価の実技テスト	江戸・坂崎
第12・13回	12/20	実習前実技試験	中枢神経疾患に対する評価の実技テスト	室井・大谷
第14・15回	2/13	実習後実技試験	各検査測定方法の実技テスト	全教員
履修条件	臨床実習の服装・身なりで臨むこと。評価器具を準備すること。			
予習・復習	各疾患に対する検査・測定、評価方法を復習しておくこと。			
テキスト	理学療法評価学 から で用いたテキスト			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介します。			
学生に対する評価	実技テスト(85%)、授業時の学習態度(15%)により、総合的に評価する。			

授業 科目名	発展領域論 (Progress of Physical Therapy)	履修年次: 必修:理4年	単位数: 2単位 30時間	担当教員名: 堀本佳誉 [理学療法士] (仁戸名研究室10) 室井大佑、江戸優裕、稲垣武、 坂崎純太郎 [理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 理学療法の領域が拡大していることから、新しい理学療法学の考え方を学ぶ。 急進的に発展が認められる領域に焦点をあて、先端の知識や治療技術を学ぶ 理学療法学分野の研究におけるデータ解析の実際について学ぶ。 エビデンスに基づく理学療法の実践のために、システムティックレビューおよびガイドラインについて学ぶ。				
〔授業の概要〕 理学療法学分野をはじめとして、広くリハビリテーションで急進的に発展が認められる領域に焦点をあて、先端の知識や治療技術を学ぶとともに、理学療法学研究の発展を目的に、就学時から研究に必要な統計学を学習する。合わせて、臨床研究に応用する知識を高め、理学療法のエビデンスについて理解する。				
キーワード: データ解析、システムティックレビュー、がん、予防				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/3	理学療法研究におけるデータ解析	統計的検定の基礎	堀本
第2回	10/3	理学療法研究におけるデータ解析	統計的検定(パラメトリック)	堀本
第3回	10/10	理学療法研究におけるデータ解析	統計的検定(ノンパラメトリック)	堀本
第4回	10/10	理学療法研究におけるデータ解析	統計的検定(相関・回帰分析)	堀本
第5回	10/17	理学療法研究におけるデータ解析	統計的検定(分割表の検定)	堀本
第6回	10/17	理学療法研究におけるデータ解析	統計的検定の実際	堀本
第7回	10/24	エビデンスに基づく理学療法	エビデンスの基礎	堀本
第8回	10/24	エビデンスに基づく理学療法	システムティックレビュー	堀本
第9回	10/31	エビデンスに基づく理学療法	システムティックレビュー	堀本
第10回	10/31	エビデンスに基づく理学療法	ガイドライン	堀本
第11回	11/7	予防理学療法	予防理学療法のトピックス	室井
第12回	11/7	予防理学療法	予防理学療法のトピックス	室井
第13回	11/14	がんの理学療法	がんの理学療法のトピックス	稲垣
第14回	11/14	がんの理学療法	がんの理学療法のトピックス	稲垣
第15回	11/21	まとめ	授業全体を通じたまとめ	堀本
履修条件	特になし。			
予習・復習	シラバスに沿って授業を展開します。講義内容から事前学習をしておいてください。			
テキスト	特になし。各担当教員が作成した資料をもとに授業を展開する。			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	課題レポート(85%)、授業時の学習態度(15%)により、総合的に評価する。			

授業 科目名	臨床体験実習 Clinical Exposure	履修年次: 必修:理1年	単位数: 1単位 45時間	担当教員名: 科目責任者 大谷 拓哉 (仁戸名研究室 11) 堀本佳誉[理学療法士]、室井大 佑[理学療法士]、江戸優裕[理学 療法士]、稲垣武[理学療法士]、 坂崎純太郎[理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム, コミュニケーション能力, 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、実際の理学療法場面の見学や理学療法対象者とのコミュニケーションを通して医療人としての「資質」を身につけることを目標に臨地・臨床実習を行います。 各施設の概要や特徴を理解します。 施設内での理学療法の位置づけを理解します。 理学療法の対象と理学療法士の関わりを理解します。				
〔授業の概要〕 理学療法士となるべき資質と動機付けを、維持向上させるために、理学療法士が働く臨床実践現場を見学する。本科目は、臨床実践現場における実習形式により、理学療法の対象領域、理学療法士のかかわり方とその手法等に接することで、理学療法概論等と関連付けて学習意欲の向上と理学療法士となる課題を自覚する Early Exposure の一環として学びます(理学療法士の実務経験に基づき、各教員が担当する。)				
キーワード: 臨床実習、早期体験学習、プレゼンテーション				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	12/6	オリエンテーション	実習の目的、内容、実習に向けての準備についての説明	全教員
第2回	1/15	事前学習	実習施設の概要、行われている理学療法についての事前学習	
第3回	1/22	実習準備1	感染対策・自己紹介用紙について	
第4回	1/29	実習準備2	実習の諸注意、実習での提出物、課題についての説明	
第5回	2/28	実習準備3	実習の最終確認	
第6回	3/17~ 3/21	臨床実習	病院、クリニック、介護老人保健施設等における実習。見学を中心として、理学療法士が働く臨床実践現場を体験する。	
第7回	3/24 時間未定	学内総括セミナー	実習施設における体験内容の発表および総括(仁戸名キャンパスで行う)	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習:各講義で扱うテーマについて、「臨床実習の手引き」や文献等で予習してください。 復習:各講義の資料やノートを見直すことで知識の定着を図ってください。			
テキスト	本専攻「臨床実習の手引き」を活用します。			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介します。			
学生に対する評価	臨床総合評価(50%)、学習態度、課題レポート・セミナーでの発表等(50%)を勘案し、総合的に評価します。			

授業 科目名	評価実習 Clinical Assessment Practice	履修年次: 必修:理3年	単位数: 4単位 180時間 コード:RPC400	担当教員名: 大谷拓哉[理学療法士] (仁戸名研究室11) 堀本佳誉[理学療法士]、室井大 佑[理学療法士]、江戸優裕[理学 療法士]、稲垣武[理学療法士]、 坂崎純太郎[理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 健康づくりの実践, 実践に必要な知識, コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 臨床の現場で、実践を通して学内で学んだ評価方法の確認をします。到達目標は以下のものとします。 理学療法士として必要なコミュニケーション能力を身につけること。 ROM、MMT等の基本的評価手技を取得すること。 評価から得られた知見をもとに問題点、治療目標を設定できること。				
〔授業の概要〕 さまざまな疾患、疾病、外傷により障害（運動障害、感覚障害、内部障害等）のある対象者に対して、理学療法の一連の流れのうち、評価から治療計画立案までの過程を経験することで、知識と技術を修得する。本科目は、学外施設における理学療法士実習指導者の下で行う実習形式により、対象者に対して評価等の理学療法の流れを実施することで、理学療法評価方法の技術と知識の統合を理解する。（理学療法士の実務経験に基づき、各教員が担当する。） ----- キーワード：臨床実習、理学療法評価、問題点抽出、ゴール設定				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
	未定	オリエンテーション	臨床実習の目的・内容、学生の心得、諸注意、課題の説明	全教員
	R7.1.13 ~ R7.2.7	評価実習	病院、クリニック等の臨床現場における実習。 期間：4週間 各実習施設の指導者の指導のもと、問診、各種検査・測定を行う。 評価から得られた知見から問題点、治療目標を設定する(可能であれば治療プラン立案まで行う)。 実施した内容について適宜記録、報告する。	
	2/10	総括セミナー/報告会	課題の提出、実習の振り返り、実習報告	
履修条件	シラバスの先修条件を参照してください			
予習・復習	予習：これまでに学んだ評価、検査・測定について、教科書や資料を見直し、また実技については自主練習に励んでください。 復習：OSCEや臨床実習で不足していた知識、技術を復習し、次の実習に備えてください。			
テキスト	本専攻「臨床実習の手引き」を活用します。			
参考書・参考資料等	特になし			
学生に対する評価	臨床総合評価(70%) 学習態度、課題レポート・セミナーでの発表等(30%)を勘案し、総合的に評価します。			

授業科目名	総合実習 Clinical Education	履修年次: 必修 理 4 年	単位数: 7 単位 315 時間	担当教員名: 大谷拓哉[理学療法士] (仁戸名研究室 2) 堀本佳誉[理学療法士]、室井大佑[理学療法士]、 江戸優裕[理学療法士]、稲垣武[理学療法士]、 坂崎純太郎[理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 健康づくりの実践, 実践に必要な知識, 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 理学療法の評価から治療計画の立案、治療計画の実施、再評価による一連の過程を経験することで、知識と技術を修得します。到達目標は以下のものとします。 理学療法の評価、問題点抽出、プログラム立案を確実にできること。 治療技術を学び、自分で行えるようになること。				
〔授業の概要〕 理学療法の評価から治療計画の立案、治療計画の実施、再評価による理学療法の検討の一連の流れを経験することで、知識と技術を修得する。本科目は、学外施設における理学療法士実習指導者の下で行う実習で、対象者に対して評価等の理学療法の流れを理解する。運動器リハビリテーションや脳血管疾患リハビリテーションの認可施設を中心に、呼吸循環器・代謝系障害などの対象に対する 7 週間の総合的な臨床実習を通して理学療法を理解する。(理学療法士の実務経験に基づき、各教員が担当する。)				
キーワード: 臨床実習、理学療法評価、問題点抽出、ゴール設定、治療技術の修得				
〔授業計画〕				
回数	テーマ	内 容		担当
事前評価	事前評価	理学療法検査・測定に関する知識・技術のチェック		全教員
4/15~6/7	総合実習	病院、クリニックなどの医療現場における実習です。期間は7週間とします。 各実習施設の指導者の指導のもとで、問診、各種検査・測定を行います。 理学療法の評価から得られた知見から問題点、治療目標を設定し、治療計画を立案・実施します。 実施した内容について適宜、記録や報告を実習指導者に行います。 実習の施設によって、実習の終了時に発表会があります。		
6/10	総括セミナー/報告会	課題の提出、実習の振り返り、実習報告		
履修条件	3年次までの必修科目の単位すべてを修得済みであること。			
予習・復習	予習: これまでの授業で学んだ知識、技術を復習しておいてください。 復習: 実習中に不足していた知識、技術を復習し、次の実習に備えてください。			
テキスト	本専攻「臨床実習の手引き」を活用します。			
参考書・参考資料等	特になし			
学生に対する評価	臨床総合評価(70%) 学習態度、事前評価、提出課題・報告会での発表等(30%)を勘案し、総合的に評価します。			

授業科目名	総合実習 Clinical Education	履修年次: 必修 理 4 年	単位数: 7 単位 315 時間 コード: RPC402	担当教員名: 大谷拓哉[理学療法士] (仁戸名研究室 2) 堀本佳誉[理学療法士]、室井大佑[理学療法士]、 江戸優裕[理学療法士]、稲垣武[理学療法士]、 坂崎純太郎[理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 健康づくりの実践, 実践に必要な知識, 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 理学療法の評価から治療計画の立案、治療計画の実施、再評価による一連の過程を経験することで、知識と技術を修得します。到達目標は以下のものとします。 理学療法の評価、問題点抽出、プログラム立案を確実にできること。 治療技術を学び、自分で行えるようになること。 再評価を実施し、自らが立てた計画の変更ができること。				
〔授業の概要〕 理学療法の評価から治療計画の立案、治療計画の実施、再評価による理学療法の検討の一連の流れを経験することで、知識と技術を修得する。本科目は、総合実習 と同様に学外施設における理学療法士実習指導者の下で行う実習で、対象者に対して評価等の理学療法の流れを実施することで、技術と知識の統合と理解を図る。脳血管疾患リハビリテーションや運動器リハビリテーションの認可施設を中心に、呼吸循環器・代謝系障害など様々な対象疾患に対する 7 週間の総合的な臨地実習を通して理学療法を理解する。(理学療法士の実務経験に基づき、各教員が担当する。)				
キーワード: 臨床実習、理学療法評価、問題点抽出、ゴール設定、治療技術の修得				
〔授業計画〕				
回数	テーマ	内 容		担当
6/17~8/9	総合実習	病院、クリニックなどの医療現場における実習です。期間は7週間です。各実習施設の指導者の指導のもとで、問診、各種検査・測定を行います。理学療法の評価から得られた知見から問題点、治療目標を設定し、治療計画を立案・実施します。実施した内容について適宜、記録や報告を実習指導者に行います。再評価や最終評価ができ、治療計画の変更もできるようにします。 実習の施設によって、実習の終了時に発表会があります。		全教員
8/19	総括セミナー/事後評価	課題の提出、実習の振り返り、実習で学んだ検査測定・治療に関する知識・技術のチェック		
履修条件	3年次までの必修科目の単位すべてを修得済みであること。			
予習・復習	予習: これまでの授業で学んだ知識、技術を復習しておいてください。 復習: 実習中に不足していた知識、技術を復習し、次の実習に備えてください。			
テキスト	本専攻「臨床実習の手引き」を活用します。			
参考書・参考資料等	特になし			
学生に対する評価	臨床総合評価(70%)、学習態度、提出課題・事後評価等(30%)を勘案し、総合的に評価します。			

授業科目名	地域理学療法学実習 Clinical Education for Community Based Physical Therapy	履修年次: 必修 理 4 年	単位数: 1 単位 45 時間 コード: RPC403	担当教員名: 大谷拓哉[理学療法士] (仁戸名研究室 2) 堀本佳誉[理学療法士]、室井大佑[理学療法士]、 江戸優裕[理学療法士]、稲垣武[理学療法士]、 坂崎純太郎[理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム, コミュニケーション能力, 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、これまでの臨床実習で学んだ専門的知識や経験を基に、高齢者あるいは利用者に対する理学療法の実践と他職種との協働を見学・体験することを目的とします。到達目標としては、「訪問リハビリテーションあるいは通所リハビリテーションにおける理学療法士の役割を理解すること」とします。				
〔授業の概要〕 学外の実習施設で、訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションの現場を体験し地域理学療法の理解を促進する。本科目は、原則として学外施設での実習形式により、訪問リハビリテーションへの同行や通所施設での実地演習を行う。また、それぞれの見学、体験した内容についてレポートにまとめ、報告会でのプレゼンテーションとディスカッションの機会も設ける。(理学療法士の実務経験に基づき、各教員が担当する。)				
キーワード：臨床実習、地域理学療法学、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション				
〔授業計画〕				
日程	テーマ	内 容		担当
8/19	オリエンテーション	実習の目的、内容、諸注意、課題の説明 訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション部門における実習。見学を中心として、地域理学療法の実践について学習する。		全教員
9/2~9/6	臨床実習			
9/9	総括セミナー/報告会	課題の提出、実習の振り返り、実習で学んだ内容の報告		
履修条件	3年次までの必修科目の単位すべてを修得済みであること。			
予習・復習	予習：これまでの講義で学んだ地域理学療法に関する知識・技術を講義資料や文献等で再確認してください。 復習：実習中に不足していた知識、技術を復習してください。			
テキスト	本専攻「臨床実習の手引き」を活用します。			
参考書・参考資料等	特になし			
学生に対する評価	臨床総合評価(50%)、学習態度、提出課題・報告会での発表等(50%)を勘案し、総合的に評価します。			

授業 科目名	卒業研究 (Graduation works)	履修年次: 必修：理4年	単位数: 2単位60時間 コード：RPD400	担当教員名: 堀本佳誉[理学療法士] (仁戸名研究室10) 大谷拓哉、室井大佑、江戸優裕、 稲垣武、坂崎純太郎[理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 コミュニケーション能力, 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 理学療法研究方法論で習得した 文献検索、研究計画、実験・調査の実施、結果の解析、論文作成、 プレゼンテーションについての基礎的な知識・技術を体験することを目標とします。これは卒業後の臨床研 究が行える能力を身につける事として捉えるものと考えています。				
〔授業の概要〕 理学療法研究方法論で修得された知識内容に基づいて、学生個々が設定した研究課題の解決と結果の発表等 の一連のプロセスを体験する。本科目は、さまざまな研究課題に基づき、学生の研究課題に即した手法を選択 し、課題解決とまとめを、教員に対する人数を少数として、十分な指導の下に学ぶ。				
キーワード：卒業研究、実験デザイン、理学療法研究方法論				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/1	研究構想発表会 実験・調査の実施 卒業研究発表会	研究計画の発表(発表4分、質疑3分)	全教員
第2回			全教員	
第3回			全教員	
第4回			各担当教員の指導の下で研究を進め ます。	全教員
第5回			全教員	
第6回			全教員	
第7回	11/29	卒業論文提出	口述発表(発表7分、質疑3分) 卒業報告書掲載します(執筆の様式 は後日連絡します)	全教員
第8回	12/6			全教員
履修条件	担当教員のゼミナールに積極的に参加し、真摯に課題に取り組んでください。勿論、英文 のReviewは常に行ってください。			
予習・復習	シラバスに沿ってスケジュールが進みます。特に、研究計画発表は開催日程に注意してく ださい。研究発表や論文提出は余裕をもって行うこと。			
テキスト	自分の研究に応じたReferences(英文)を読んでReviewすること。			
参考書・参考資料等	自分の研究に応じた沢山のReferences(英文)を読み込むこと。			
学生に対する評価	研究課題に取り組む日ごろから、各教員のゼミナールに必ず出席すること(50%)、卒業研 究発表(20%)と論文内容(30%)からに評価します。ゼミの参加(出席日数)や発表会などの 参加が評価の基準となります。			